令和３年度総合教育会議について（会議概要）

１　総合教育会議とは

教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、区長との連携強化を図るために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条の４第１項の規定に基づき設置した会議体。

２　開催日時

令和３年９月２日（木）

午前１０時３０分から午後０時２０分まで（公開で実施）

３　開催場所

教育支援センター

４　構 成 員

区長、教育委員会（教育長、委員）５名、計６名

※その他、事務局職員として政策経営部長・総務部長・教育委員会事務局次長・地域教育力担当部長ほか関係部課長が会議に出席した。

５　議　　題

人生を豊かに生きるための生涯を通じた学びの在り方について

－可能性とチャンスを拡げる学習の場と機会の提供に向けて－

（１）　プレゼンテーション「区民の学び支援としての社会教育の意義や現状と課題等」

（２）　協議

６　会議要旨

事務局より、区民の「学び」に係る取組や意義、社会教育施策の展開に向けた課題、そして生涯を通じた「学び」支援の方向性や取組について説明を行った。

区長の発言を皮切りに、議題について協議が行われ、各委員から意見が出された。

【区長】

・人生１００年時代、超スマート社会といった、社会の変化や課題を踏まえた新しい時代の生涯学習のあり方、方向性を議論し見出していく必要がある。

・学びの広がりは、学びの起点を増やし、分野を超えて横断的、総合的な、従来の枠を超えた学びの展開につながっていく、そうした広がりを生む仕組みがあればと考えている。

・人生を豊かに生きるための生涯を通じた学びのあり様は、学びのプラットホームが、様々な学びへ誘導し、その後の自主的な活動へとつなげていく。区が耕した土に、区民の学びという種が色とりどりの花や実をつけていくような、大きく広がりのあるフィールド、豊かな森ができていくイメージである。まさに、板橋区に「学びの森」を創造するという想いで、教育委員会を含め、区の各部門が一体となった取組を進めていきたい。

【高野委員】

・区が実施している様々な講座を受けることにより、知識を得るだけではなく、地域とのつながりが少しずつ深まっていった。

・子どもたちの地域での活動は貴重な体験であり、進路等にも大きく影響している。

・区民を対象とした講座や講習会は数多くあり、区における様々な部署が相互に連携して情報を一元化することが重要である。

・区民のニーズに合った講座を紹介するコーディネーターの存在により、目的に合った学習の機会が広がることが考えられる。

・参加者のニーズを把握し、反映する仕組みを作り、様々な年代の方が参加できる魅力的な講座にしていくことが大切である。

・関係づくり、地域づくりの課題として、教わるだけ、学ぶだけで終わることのないような学びの循環の仕組みづくりが望まれる。

・現在、教育委員会においては民生・児童委員と学校との協力関係をもとに、家庭教育支援チームの活動が始まっているが、適切な情報を提供し、支援を広めていくためにも、連携し、情報共有を深めていくことが重要である。

【青木委員】

・Society5.0 で実現する超スマート社会、それをめざす中での一つのキーワードがＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）であり、持続可能な社会の創造を指向する学習活動である。この持続可能性のある学びというのは、学びの循環や地域にて学び合う教育の中から生まれてくるものと考える。

・変革が進んでいる社会の中で、生涯教育として学び続けることは重要である。学びの循環を上手に利用し、社会の変革に順応して行くことが、社会教育の中に大きな意味を持ってくる。

・複雑化する社会における課題解決には、人文科学の知、社会科学の知、そして自然

科学の知を融合した「総合的な知」の創出と活用が求められる。そこで、「自然の理」（体験・経験により知っていて当然のこと）を身につけた人材の育成は不可欠であり、体験・経験を通じての学びは相変わらず必要である。

・社会教育を通じて、すべての年代の人々にとって知識と経験に基づいた総合的な知が創出される社会の実現には、学びの保障のみならず、地域と学び合う教育や生き抜く力の育成が欠かせない。

【松澤委員】

・区民の皆さんを通じて、「学ぶ」ということと「生きがい」ということはつながっていると感じている。

・学んだことをうまく活かす、誰かに教えることができるようになることに、人は非常に興味を持つものと思う。

・教えることのできる人を育てるということは非常に難しいが、教育とは「教えて育てる」ことだと考える。

・「学習すること」とは、自分にとって必要であるから学ぶ、好きなことや、やりたいことを学ぶ、そして何かのために、大義や大志の上に立って学ぶことの３つの側面があると考える。自分は、学びによって生きる意味を探し、考えることができた。

・「学びの森」という視点に立てば、大きな木々を育てるために一番大事であるのは大地、土であり、そのためには耕すこと、肥料を入れていくことが必要である。まさに地域の方々がそれを担い、子どもたちが大きく育つ土壌を造っていかなければならない。

【長沼委員】

・社会教育の推進においては学校教育との連携・協働が重要であり、その中で学校部活動の地域展開は喫緊の課題となっている。

・学校部活動の地域展開においては、地域住民が学校、教育委員会と連携し、主体的に捉えて進める必要があるため、ｉＣＳの関与が重要となる。

・地域の指導者にとっては「教えることを通して自らも学ぶ」、すなわち生涯学習になり得る。

・学校部活動の地域展開を進める際には、指導者への指導費用や指導者の確保そして教員の関わり方等の諸課題があるが、板橋区における部活動の地域展開の先行モデルを作り、早急に検討を始めることが、「人づくり、関係づくり、地域づくり」につながると考える。

【中川教育長】

・「教育の板橋」の実現に向け、特に社会教育、生涯学習においては、区民誰もが「いつでも、どこでも、ライフステージに応じて学べる」まちづくりを掲げており、めざす板橋区民の人間像を表す言葉は、「自立　貢献　共生　創造」である。

・区民が充実した幸福度の高い人生を送ることができる環境づくり、すなわち生涯学習社会の構築が教育委員会にとっても重要な役割であり、区長部局との強い連携のもとに進めていきたい。
・板橋区の社会教育の方向性として、「区民の幸福度・充実感の高揚」「学びの循環」「居場所づくり」「コモンズ」そして、「つながり、関わり、関係性」をキーワードとし、インプットする学びから、他者と共に考え、学ぶ、アウトプットを意識した一過性でない学びのあり方を考えていきたい。
・板橋の区民の人たちがそれぞれ「いたばしびと」として、ｉＣＳを始めとした、学校をプラットホームにしたつながりで、郷土愛が醸成され、地域が活性化していくことが大事である。
・区が行っている学びに関する事業を、生涯学習の一環である社会教育としての位置づけを明確にし、教育委員会が各事業にアクセスしやすいシステムを築き、区長部局と調整・連携して推進するというようなハブ機能を持つことが重要である。
・家庭教育、学校教育、社会教育、自主的な学びなど生涯にわたったすべての学習を生涯学習と捉え、固定観念にとらわれず、教育委員会、区長部局や関係団体と連携しながら、区民が豊かな人生を送るために、あらゆる機会にあらゆる場所で学習することができ、その成果を発揮できる社会の実現に努めていかなければならない。

これらの意見を踏まえ、区長と教育委員会が密接な連携を図り、引き続き質の高い教育の実現をめざしていくことが確認された。